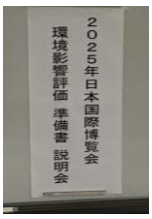
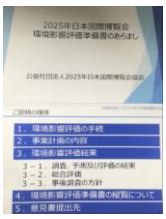
大阪・関西万博「環境アセスメント説明会」

2025 年日本国際博覧会環境影響評価準備書の説明会が、朝潮橋の「丸善インテックアリーナ大阪」であり参加した。大きな会場だが、参加者はわずか 12 名と閑散としていた。思わずこんな寂しい説明会なんて、「ありーな」と叫びたくなった。説明会は今回まで 3 回開催されたが、参加者は延べ 70 名ほど。これで「日本国際博覧会」なのかと疑問に感じた。





カラ―刷り「準備書あらまし」により説明があり、質疑応答に移った。ただちに挙手をして、次の 4 点を質問した。

1 環境影響評価の前提である博覧会の事業計画、なかでも想定入場者数 2820 万人、計画日来場者 28.5 万人/日の積算根拠を示すべきだ。新型コロナウイルス感染拡大により、想定を見直さなかったのか。

2 会場計画の「大屋根」(リング)の建設費は 350 億円の巨費だが、これは比較的簡易な仮設構造であり、万博終了後に撤去されるのか。会場計画のなかでも、まずは「大屋根」の再検討を求めたい。

3 準備書 711 ページに環境影響の総合的な評価として、「いずれの項目についても環境保全目標を満足するものと評価された」と結論づけているが、個々の項目だけでなく、全体としての総合的な評価を示すべきではないか。

4 準備書 728 ページから夢洲関連事業との複合的な影響を参考資料として示しているが、IR カジノの工事車両だけでなく、大阪港で重要な役割を果たしているコンテナターミナルもきちんと評価すべきでないか。準備書全体に港湾機能の言及が少ないのはなぜか。

当初は時間がないと考えて、1・2 だけの予定だったが、時間がありそうなので 3・4 も発言した。これに対して、内容のないような回答があった。私に続いて 2 人の参加者が質問した。市民の意見がどのように反映されるかという質問に対して、評価書に記載されるとの回答。環境影響評価の手続きについて、見直すべき課題は多い。

司会がほかに質問はないかと求めたが、参加者から手が挙がらないようなので、もういちど発言することにした。大屋根は撤去について大阪市と協議しているとのことたが、仮設構造で安全面に支障ないかと問うと、法令遵守して設置するとの回答。法令の建築基準法適用の検討についても指摘しておいた。まだ時間がありそうなので、もう一点。先ほどの説明で、日本気象協会の担当者が「こうした対策をとります」などと発言していた。日本気象協会は今回の調査受託団体であり、事業者ではないはずだと指摘すると、博覧会協会の担当者が陳謝した。そのあと発言者はなく、予定時刻の 20 分前に終了。

結局、質疑応答の大半を私が使わせてもらった。寂しい説明会だったが、私としては「満足」できるものだった。あとで取材に来た記者と、じっくりと懇談できたことも。

(2021 年 10 月 24 日)